

2023年12月14日

日本ジオパーク再認定審査結果

日本ジオパーク委員会

日本ジオパーク委員会は、10月から11月に現地調査を行った5地域の日本ジオパーク再認定の可否について審議し、以下のとおり決定した。

再認定：三陸ジオパーク、Mine 秋吉台ジオパーク、栗駒山麓ジオパーク
条件付き再認定：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク、佐渡ジオパーク

現在、日本ジオパークは46地域である（うちユネスコ世界ジオパークは10地域）。

再認定

三陸ジオパーク

この4年間で、協議会事務局を宮古市内に統合・設置した結果、地域とのコミュニケーションが増え、円滑な協議会運営を図れるようになった。専門員を雇用するなど、地球科学的特性の俯瞰や地域全体をコーディネートできる体制が整いつつある。また、ジオパーク構成自治体の首長が自らガイド役やツアー参加者となり他の自治体のサイトを巡る取り組みは、3県16市町村を繋ぐ広域ジオパークの好事例である。さらに、津波・自然災害と復興を高いクオリティで伝承・発信している。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

Mine 秋吉台ジオパーク

この4年間で、施設の改善やジオストーリーの共有、ガイド育成や地域団体との協働、関係機関との連携強化など、様々な取り組みが進んだ。教育、観光受け入れ、秋吉台、秋芳洞の保全にも進展がみられた。展示改善や多様なイベント開催、ジオパークを取り入れた学習などの成果は大きく、ジオパークの魅力がより幅広くアピールされている。地質物品販売などの課題も未だ残されているが、ジオパークの理念を共有した事務局スタッフ、ガイド、関係者とともに魅力的な活動を展開し、課題解決に向けて取り組んでいる。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

栗駒山麓ジオパーク

2008年岩手・宮城内陸地震から15年が経過し、地震災害からの復興と当時の記憶の

継承が共に進められてきた。荒砥沢地すべりの現地見学可能な地域が広がったことによって、ジオパーク活動がより進み、被災地域の人々が災害の記憶を伝える重要な役割を担うようになった。質の高いジオガイドがツーリズムや学校教育に積極的に取り組むなど、ボトムアップのジオパーク活動が進んでいる。それらを支えている事務局の運営も評価できる。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

条件付き再認定

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

勝山市総合計画に10年後のまちのすがたを形成する基盤としてジオパークが位置づけられ、ESDの考え方が学校教育に定着し地域と連携しながら進められている。一方で、県立恐竜博物館や県立大学との連携が十分でなく、緊急に福井県などとの正式なパートナーシップ協定を結ぶ必要がある。さらに、事務局の体制を強化したうえで、まちの計画に紐づいた形でジオパークとしての将来ビジョンを関係者や地域住民とともに作り上げていく必要がある。

以上のことから、日本ジオパークとして条件付き再認定とする。

佐渡ジオパーク

この4年間で、エリア内の佐渡赤玉石をはじめとする地質物品の販売者を減らし、採取を停止させることに成功した。世界遺産候補や世界農業遺産の取り組みとジオパーク活動との連携が進み、佐渡全体として活発な教育活動の結果、地域に愛着を持つ若い世代も増えている。しかし、地質以外の遺産の多くが、未だにジオパークの構成要素として十分に価値づけられていない。緊急に自然や文化の遺産をジオパークのサイトとして評価し、それらの保全と活用を進める必要がある。

以上のことから、日本ジオパークとして条件付き再認定とする。

以上